日本語との対照を通して諸言語の指示詞の特徴をみる
－中国語・韓国語・ロシア語・タイ語をとりあげて－

A Study on Demonstatives of Several Languages by Contrasting with Japanese; As Examples of Chinese, Korean, Russian and Thai's Demonstratives

金井勇人[i]・河正一[ii]・金聖実[iii]

KANAI Hayato，HA Jeongil and KIM Shengshi

（要旨）

諸言語の指示詞の体系には２系列と３系列が存在する。本稿は、３系列の日本語の指示詞を基準とし、同じく３系列の韓国語・タイ語、そして２系列の中国語・ロシア語を取り上げて、指示詞の対照研究を行うものである。まず、２系列同士、あるいは３系列同士であっても、それぞれ大きな共通点を有するものの、同時に小さな異同をも内包している、ということを示した。また、２系列と３系列とは系列を異にするものの、［±近称］という素性を導入すれば統一的に把握できる、ということを論証した。そして、３系列の中称は［－近称］から派生することを日本語の指示詞を例に論証し、２系列と３系列とは同じ枠組みで対照研究が可能であることを論じた。

キーワード： 指示詞、２系列と３系列、対照研究、中国語、韓国語、タイ語、ロシア語

１．はじめに

諸言語の指示詞の体系には２系列と３系列がある。本稿は、２系列の指示詞体系として中国語・ロシア語を、３系列の指示詞体系として韓国語・タイ語を取り上げて、それらを３系列の指示詞体系である日本語と対照しながら、それぞれの特徴を明らかにする。[iv]

２．２系列と３系列の大まかなパターン

まず、現場指示における２系列と３系列の指示詞の性質を見てみたい。それぞれの体系には、それぞれに特有のパターンがある。Fillmore（1982）は、次のように述べている。

（1） Demonstratives … may have a two-step or a three-step distance contrast. The two contrasting systems were represented as

[+Proximal] : [-Proximal]

[i] 埼玉大学 人文社会科学研究科 准教授
[ii] 埼玉大学 日本語教育センター 非常勤講師
[iii] 埼玉大学 人文社会科学研究科 修士課程修了生
[iv] タイ語の監修：Irin Pangsakulyanont（チュラロンコン大学学部生・埼玉大学短期交換留学生）
ロシア語の監修：Борюсик Кузьменко（東京外国語大学研究生）（両名の身分は 2017.3.11 時点のもの）

[Proximal] : [Medial] : [Distal]

The Medial category in a three-step system has ‘short distance from Speaker’ and ‘close to Hearer’ as the two elements of its semantic prototype. （Fillmore1982:55）

この定義に従うと、本稿で分析する諸言語の指示詞体系も、どちらかの系列に振り分けられる。

（表１）２系列の指示詞体系

	+ Proximal	- Proximal
中国語	这	那
ロシア語	Этот	Тот
（参考）英語	this	that

（表２）３系列の指示詞体系

	Proximal	Medial	Distal
日本語	コ	ソ	ア
韓国語	이	ユ	저
タイ語	nii	nan	noon

３．現場指示

3-1　３系列

3-1-1　距離区分型

３系列の距離区分型では、話し手から対象までの距離に応じて、それぞれ近称・中称・遠称で指示する。

(2) 近称（Proximal）

ようやく私は求める一枚に行き当った。その写真は、店の明るすぎる電燈のおかげで、光沢紙のおもてに反射を閃めかせ、危うく見のがされそうになったのだが、私の手の中で反射が納まると、銹朱のコートの女の顔がそこに現われた。

「これを下さい」と店の人に私は言った。（近称）（金閣寺）

(3) 中称（Medial）

（並んで座っている太郎と花子。テーブル上の小瓶について、太郎が花子に尋ねる）

「花子ちゃん、それ、何？ 塩？ 砂糖？」（中称／独り言では成立しない）（作例）

(4) 遠称（Distal）

川の向う岸が俄かに赤くなりました。…（中略）…ルビーよりも赤くすきとおりリチウムよりもうつくしく酔ったようになってその火は燃えているのでした。

「あれは何の火だろう。あんな赤く光る火は何を燃やせばできるんだろう。」

ジョバンニが云いました。（遠称）（銀河鉄道の夜）

(2k)　이것을 주세요.（近称）（以下、例文番号の k は韓国語を表す）
（これ を ください）

(3k)　그것은, 뭐일까？（中称／独り言では成立しない）
　　それは　何かな

(4k)　저것은 무슨 불일까.（遠称）
　　あれは 何の 火だろう

ここで中称に注目したい。(3) では、話し手の「太郎」と、その話し相手の「花子」が登場して、その両者から中距離にある対象（小瓶）を中称の指示詞（それ）で指している。しかし仮に (3) が「太郎」の独り言だとしたら、中称は不適格となる（近称か遠称を用いねばならない）。韓国語（3k）でも同様である。

一方、タイ語の場合は、そのような制約が存在しない。

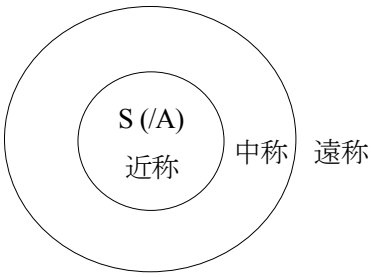
(2t)　Chàn　thɔˆɔŋkaan　an　níi（近称）（以下、例文番号の t はタイ語を表す）
　　私　ほしい　これ

(3t)　naˆn　khɯɯ　aria　kan　na（中称／独り言でも成立する）
　　それ　です　何　か　な

(4t)　noˆon　khɯɯ　fai　aria　kan（遠称）
　　あれ　です　火　何　だろう

nan が独り言でも成立するという現象は、（後ほど分析する）２系列の性質と同様である。パドゥンパッタノードム・オンウマ（2004）は、タイ語の３系列を「近称（nii）・遠称（nan）・絶対遠称（noon）」と定義しているが、これは正確な定義であると思われる。つまり nan は、３系列の中称でありながら、２系列の非近称の性質を兼ね備えているため、独り言でも成立するのだと考えられる。[v]

(5)　３系列の距離区分型



S：話し手　　A：相手

3-1-2　人称区分型

３系列の人称区分型では、話し手は自身の領域を近称で、聞き手の領域を中称で、それぞれ指示する。

(6)（電車内で、向かい側の座席に座っている花子の持つ箱を指して）
　太郎「花子ちゃん、それ、何？」（中称／聞き手称）
　花子「あ、これ、次郎君へのプレゼントよ」（近称／話し手称）（作例）

話し手の領域を指すことを「話し手称」、聞き手の領域を指すことを「聞き手称」と呼ぶことにすると、距離

[v] 本稿では、現場指示における中称のプロトタイプの性質を「独り言では成立しないこと」と考えている。nan（遠称）は、近称（nii）と絶対遠称（noon）の中間に位置する[Medial]であることには変わりはないので、《非プロトタイプ的な中称》であると捉える。

区分型における近称が話し手称に、中称が聞き手称に相当する。

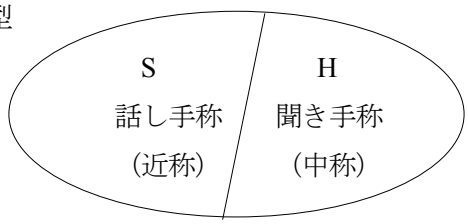
花子 ちゃん それ 何？
(6k) 太郎「하나코 야 , 그것 뭐야？」（中称／聞き手称）

あ これは 次郎 へ の プレゼント よ
花子「아, 이것은 지로에게의 선물 이야」（近称／話し手称）

花子ちゃん それ です 何
(6t) 太郎「haanakho naˆn khɯɯ arai」（中称／聞き手称）

あ これ です プレ ゼント への 次郎君
花子「ooˆ niˆi khɯɯ khɔ́ɔŋ khwan samràp jiroˆo」（近称／話し手称）

(7) ３系列の人称区分型



S：話し手　　H：聞き手

3-2　２系列

3-2-1　距離区分型

２系列の距離区分型では、話し手から近い領域は近称で、近くない領域は非近称で、それぞれ指示する。

・近称（+Proximal）

ください 私 これ
(2c) 请 给 我 这个。（近称）（以下、例文番号の c は中国語を表す）

ください 私に これを
(2r) Дайте мне это.（近称／этот の中性・対格）（以下、例文番号の r はロシア語を表す）

・非近称（-Proximal）

それ です 何 かな
(3c) 那 是 什么 呢？（非近称）

それは 何
(3r) То что？（非近称／тот の中性・主格）

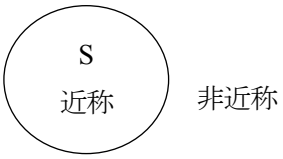
あれ です 何 火
(4c) 那 是 什么 火？（非近称）

何 あれ いったい 火
(4r) Что то за огонь？（非近称／тот の中性・主格）

２系列の指示詞体系（中国語・ロシア語）では、中称は非近称に吸収されているので、中称の指示詞が存在しない。話し手から中距離にある対象であっても、遠距離にある対象であっても、どちらも非近称を用いて指すことになる。また、日本語のソ系のように「独り言で用いることが出来ない」という制約は存在しない（相手の存在／非存在は指示詞の使用可否に影響を与えない）。

先に観察したタイ語は、３系列でありながら、中称の nan には「独り言で用いることができない」という制約が存在しない、ということを見た。これは２系列の非近称と同じ性質である。このことから、タイ語は非プロトタイプ的な３系列である、と考えられる。

(8) ２系列の距離区分型



ここで、距離区分型における諸言語の指示詞の対応をまとめておく。

（表３）現場指示：距離区分型の対照

	近称［Proximal］	中称［Medial］	遠称［Distal］
日本語	コ	ソ	ア
韓国語	이	ユ	저
タイ語	nii	nan（遠称）	noon（絶対遠称）
中国語	这	那	
ロシア語	Этот	Тот	
	近称［+Proximal］	非近称［-Proximal］	

3-2-2　人称区分型

２系列の人称区分型では、話し手の領域は近称で、聞き手の領域は非近称で、それぞれ指示する。

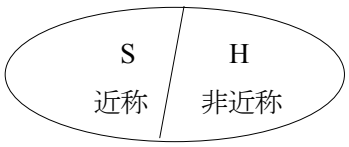
(6c) 太郎「那(それ)　是(です)　什么(何)？」(非近称)

花子「啊(あ), 这个(これ)　是(です)　给(あげる)　次郎(次郎)　的(の)　礼物(プレゼント)。」(近称)

(6г) 太郎「Ханако(花子)　Чан(ちゃん), то(それは)　что(何)？」(非近称／тот の中性・主格)

花子「О(あ), это(これは), подарок(プレゼント)　для(への)　Дзиро - куна(次郎 ― 君)」(近称／Этот の中性・主格)

(9) ２系列の人称区分型



２系列（中国語・ロシア語）には「聞き手称」が存在しない。つまり、２系列の人称区分型では、聞き手の存在が考慮されず、《話し手から近いか否か》だけが選択要因となっている。したがって、話し手から近いと

判断された領域は、（それがたとえ聞き手にも近い領域であっても）近称によって指示される。[vi]

（10）（聞き手の近くの「かばん」を指して。ただし「かばん」は話し手からも近い）

３系列　(j) そのかばん、外国製でしょう？（聞き手称）

(k) 그 가방, 외국제 지요 ？（聞き手称）
（その かばん 外国製 でしょう）

(t) kràphaoˇ bai naˆn phàlìt jàak thàaŋphràtheˆet chaˆimaiˇ（聞き手称）
（かばん 個 その 生産する から 外国 でしょう）

２系列　(c) 这个 包 是 外国制 的 吧 ？（近称）（張麟声 2001 より）
（その カバン です 外国製 もの だろう）

(r) Эта сумка иностранного производства?（近称／Этот の女性・主格）[vii]
（その かばん 外国 製品）

中国語・ロシア語においては、話し手と聞き手を包含した「我々」の視点が構成される。そのため（10）のような状況では、近称が選ばれることになる。もし聞き手の領域を指すときに非近称が選ばれるとしたら、それは《対象の中身が良く分からない、対象が良く見えない、対象までの間に障害物がある》等、話し手が対象に対して心理的な遠さを感じているという状況においてである（木村 1992 参照）。[viii]

（表４）現場指示：人称区分型「話し手称 vs 聞き手称」の対照

	話し手称	聞き手称
日本語	コ	ソ
韓国語	이	그
タイ語	nii	nan

（表５）現場指示：人称区分型「近称 vs 非近称」の対照

	近称	非近称
中国語	这	那
ロシア語	Этот	Тот

４．文脈指示（非現場指示）

4-1　３系列

文脈指示における指示詞は、基本的に現場指示における指示詞の特徴を引き継いでいる。

[vi] 逆に言えば、（３系列において）聞き手の存在が考慮される＝聞き手称が存在する、ということは、対象が聞き手の領域内にあると判断された場合、話し手にも近いと感じられても、それを近称で指示することはできず、聞き手称（中称）で指示しなければならない、ということである。

[vii]（10c）（10r）では、日本語では中称を用いる箇所で中国語・ロシア語では近称を用いる、という《ずれ》を表すために、ルビは「その」のままにしてある（以下同）。

[viii] 木村（1992）の議論は中国語についてのものだが、ロシア語についても監修者に確認したところ、同様であるという。

（11）うちには犬がいますが、この犬は真っ白なんです。（近称／直示的照応）
（12）新しいパソコンを買ったら、それよりもっと新しいのが欲しくなる。（中称／無標の照応）
（13）太郎「昨日、一緒に行ったレストラン、おいしかったね」
花子「そうね。あのレストラン、また行こうね」（遠称／記憶指示）（以上３例＝作例）

（11）の「この」は近称である。近称では、現場指示での特徴を引き継ぎ、あたかも指示対象が眼前にあるかのような、臨場感のある指し方となる（以下「直示的照応」と記す）。

（13）の「あの」は遠称である。遠称は、記憶内にある対象（レストラン）を指す。記憶内の対象は過去の出来事であり、それは現在から見て「遠い」イメージを有するので、遠称のア系も現場指示の特徴を引き継いでいると言える（以下「記憶指示」と記す）。

（12）の「それ」は中称である。中称による文脈指示は、最も無標（何らのニュアンスをも伴わず、単に先行詞と照応するだけ）の照応と言える。現場指示の中称は《近くも遠くもない》という消極的属性を持つが、この現場指示における中称と、文脈指示における「無標の照応」とは、積極的属性を持たないという点で共通の認知的基盤を持つ、と言えるだろう。

ここで（13）に注目したい。ア系の記憶指示では、話し手・聞き手ともに、指示対象を知っていなければならない、という誤用論的制約がある（久野 1973 参照）。

（14）太郎「昨日、新しいレストランを見つけたよ。*あのレストラン、おいしかったよ」
花子「え？ どこのレストランのこと？」（作例）

（14）では「太郎」は「レストラン」を知っているが、「花子」は知らないので、ア系を使うことはできない（そのレストランと言わなければならない）。これは、聞き手が対象を知らないことに配慮し、話し手が自身の記憶内にある対象として指すことを抑制する、という誤用論的方略である（黒田 1979 参照[ix]）。

（11k）우리집에는 개가 있습니다만, 이 개는 순백색입니다.（近称／直示的照応）
（うち には 犬が います が この 犬は 真っ白 なんです）

（12k）새로운 컴퓨터를 사면 , 그것보다 더 새로운 것을 원하게 된다.（中称／無標の照応）
（新しい パソコンを 買ったら それ より もっと 新しい のが 欲しく なる）

（13k）그래 그 레스토랑, 또 가자 ！（中称／記憶指示）
（そうね あの レストラン また 行こうね）

（13k）に注目したい。日本語の指示詞との対応からは、遠称の저が選択されることが予想されるが、しかし저は不適格で、中称のユでなければならない。韓国語では中称のユが記憶指示をも担うからである（そして「話し手・聞き手ともに指示対象を知っていなければならない」という誤用論的制約は存在しない）。

とは言え、遠称の저は記憶指示と無関係ではない。例えば「저 빛나는 백제 문화！」のような「百科事典的知識であり、具体的には歴史上有名な人物や文化遺産に関する知識」である場合には저で指すことが
（あの 輝かしい 百済（の） 文化）

ix 独り言では、そもそも聞き手が存在しないので、記憶指示のア系の使用に際しては、このような誤用論的制約は無関係である。例：（独り言で）あれ、どこに置いたかなあ。

できる（金 2006:108）。[x]

家　私　飼う　犬　犬　匹　この　は　白　真っ（白）
（11t）baˆan chaˇn líaŋ sùnák sùnák tua níi pen siˇi khaˇw luán （近称／直示的照応）

と　買う　パソコン　個　新しい　と　ほしい　個　which　新しい　より　それ
（12t）phɔɔ súɯ notebook khɯˆaŋ mai khɔˆɔja yàakdaˆai khɯˆaŋ thiˆi mai kwà nán

もっと
iik （中称／無標の照応）

ね　そう　後　行く　店　あの　一緒に　また　ね
（13t） naˆn sìná wái pai ráan nán kan iik ná（遠称／記憶指示）

ここでタイ語（13t）に注目したい。タイ語の記憶指示には、nan（遠称）のみでなく、noon（絶対遠称）を用いることも可能である。これは対象（過去の出来事）への心理的な距離感によって決まり、通常の過去は nan（遠称）で、もっと遠いと感じられる過去は noon（絶対遠称）で指すことになる。

日本語においては、遠称のみが記憶指示を担当する。したがって、日本語では《過去の出来事》の捉え方が一様であると言える。これに対して韓国語とタイ語においては、中称と遠称の双方が記憶指示を担当している。両言語における使い分けの基準は異なるものの、韓国語とタイ語では《過去の出来事》を二様に捉え分けていると言えるだろう。

4-2　２系列

２系列の文脈指示においても、現場指示における各指示詞の性質が受け継がれている。

私　うち　いる　一匹　犬　この　匹　犬　とても　白
（11c）（我）家里 有 一只 狗。这 只 狗 很 白。（近称／直示的照応）

それらを　呼んでいた　頭髪早刈りばさみ　の後　この　頭髪早刈りばさみ
（11r）… Их называли «тоухацухаягарибасами». После того, как эти «тоухацухаягарибасами»

現れた
появились…（近称／直示的照応／Этот の複数形・主格）[xi]

もし　買う　新しい　パソコン　たら　ほしい　より　それ　もっと　新しい　の
（12c）如果 买 新的 电脑 的话，想要 比 这个 更 新 的。（近称／無標の照応）

しかし　ーれば　生まれる　新しい　盾（男）　ーれば　も　生まれる　新しい　矛　ために　その　盾
（12r） Но если рождается новый щит, то и рождается новый меч, чтобы этот щит

---

[x] このような記憶指示の저を、河・金井（2017）では「捉え直し」と捉えた。ユを用いると、記憶内の対象を単に外延的に指すことになるが、저を用いると、何らかの感情を伴って記憶内の対象を「捉え直す」ことになる。つまり「저 빛나는 백제 문화！」においては、「백제 문화」を単に外延的に指すのではなく、例えば「歴史に対する感嘆」などの感情を伴った、言わば「백제 문화’」として捉え直しているのである。また、この考え方を用いれば、百科事典的あるいは歴史的知識ではない対象を指す記憶指示の저も、説明が可能となる（詳細は河・金井（2017）参照）。

[xi]【原文】明治の昔、フランス製のバリカンのことを人は刈り込み器械といい、頭髪早刈りばさみといった。これが現れてから、日本の男性の「髪」の風俗に一大変革があった。（天声人語 1985.11.14）

破る
сломать…（近称／無標の照応／Этот の男性・対格）[xii]

そうね　また　行く　あの　レストラン　ね
（13c）是啊！再　去　那个　饭　店　吧。（非近称／記憶指示）

はい　ーしよう！　また　行く　に　あの　レストラン
（13r）Да！　Давай　снова пойдем в тот ресторан.（非近称／記憶指示／Тот の男性・対格）

ここで、近称による前方照応に注目したい。

日本語・韓国語・タイ語では、近称による直示的照応は有標の用法のみを持つ。あたかも眼前にあるかのように指すことで、文章のトピックとして扱ったり、修辞的な効果を狙ったりする（11）（11k）（11t）。もし無標的に前方照応を行うなら、近称ではなく、中称を用いなければならない（12）（12k）（12t）。

一方、中国語・ロシア語では、近称による直示的照応によって有標的に指すことは、もちろん可能である（11c）（11r）。しかしこれらの言語では、無標的に前方照応を行うときにも、同じく近称による直示的照応を利用することになる（12c）（12r）。これらの言語では、直前の先行詞を《常にトピック的に扱う》というルールが存在するためである。むしろ非近称による前方照応は有標の指し方であり、対象に対する何らかの心理的な遠さを感じているときに用いられる（王 2007 参照）（以下「疎外的照応」と記す）。[xiii]

また、記憶指示については、中国語・ロシア語ともに非近称が用いられる（13c）（13r）。３系列の遠称が記憶指示を担うのと同様、非近称の「遠い」というイメージが、過去の出来事の時間的な遠さと重ねられている。そして、これらの言語における《過去の出来事》の捉え方は、（韓国語やタイ語とは異なって）一様であり、この点においては日本語の記憶指示と性質を同じくする。

以上を考慮して、諸言語の文脈指示（非現場指示）についてまとめると、次のような表になる。

（表６）文脈指示（非現場指示）の対照

<table>
<tr><td></td><td>直示的照応</td><td>無標の照応</td><td>疎外的照応</td><td colspan="2">記憶指示</td></tr>
<tr><td>日本語</td><td>コ</td><td colspan="2">ソ</td><td colspan="2">ア</td></tr>
<tr><td>韓国語</td><td>이</td><td colspan="3">그</td><td>저</td></tr>
<tr><td>タイ語</td><td>nii</td><td colspan="3">nan</td><td>noon</td></tr>
<tr><td>中国語</td><td colspan="2">这</td><td colspan="3">那</td></tr>
<tr><td>ロシア語</td><td colspan="2">Этот</td><td colspan="3">Тот</td></tr>
</table>

５．３系列と２系列を統一的に把握する

本章では、現場指示における３系列と２系列の指示詞体系を統一的に把握する、という試みを提案する。これまで見てきたように、日本語の指示詞体系（３系列）は、現場指示において２つのパターンを有する。このことは double binary（三上 1953）と呼ばれる。

[xii]【原文】軍事衛星が相手国の核ミサイルを撃ち落とすことは、防御であり、核軍縮につながるという。しかし新しいタテが生まれれば、それを破る新しいホコが生まれ、またそのホコに打ち勝つタテが生まれる、というのが今までの核軍拡の道順だった。（天声人語 1985. 01.09）

[xiii] 王（2007）の議論は中国語についてのものであるが、ロシア語についても監修者に確認したところ、同様であるという。

（15）指示語体系コ・ソ・アの double binary 的な捉え方

距離区分型 ―― 近称：中称：遠称 ―― コ：ソ：ア
人称区分型 ―― 話し手称：聞き手称 ―― コ：ソ

（15）は、それぞれの指示詞が、どのような性質を持つかについて、正確な情報を与えてくれるので、大変有益である。そのことを大いに認めた上で、本稿では以下の提案を行う。

（15）の特徴は、距離区分型か人称区分型かという［場面］が先にあって、それを受けて、コ・ソ・アの［性質］が決まっていく、という順になっていることである。しかしながら、コ・ソ・アの［性質］というものが先にあって、それぞれの［場面］において、その［性質］がどのように具体化していくのか、という逆順の発想の方が、特に諸言語との対照を視野に入れた場合には、（それぞれの［場面］の同一性は、（10）で確認したように、保証されないのであるから）、より有用であるように思われる。

このような問題意識から、本稿では以下のような捉え方を提案する（詳細は金井（2017）参照）。

（16）３系列の一元的な捉え方（日本語を例に）

［＋近称］
- ［＋話し手占有領域］：コ
- ［－話し手占有領域］：φ

［－近称］
- ［＋話し手占有領域］：ア
- ［－話し手占有領域］
  - ［＋聞き手］：ソ（聞き手用法）
  - ［＋相　手］：ソ（中距離用法）

（16）は、距離区分型と人称区分型での用法をまとめて、一元的に捉えたものである。

（16a）［＋話し手占有領域］は、独り言でも成立する、ということを意味する。

（16b）［－話し手占有領域］は、独り言では成立しない、ということを意味する。つまり、もう一人の参与者が必要となる。［－近称］∧［－話し手占有領域］において初めて、《原初的な中称のソ》が立ち現れる。《原初的な中称のソ》は、もう一人の参与者が《聞き手であれば聞き手用法》へと、もう一人の参与者が《相手であれば中距離用法》へと、それぞれ派生されていく。[xiv]

同じ３系列同士の指示詞体系であっても、それぞれに異同を内包している。そのことを踏まえた上で、暫定的に、（16）の捉え方を３系列のプロトタイプとしておく。

（17）　２系列の捉え方（英語を例に）

［＋近称］―― this
［－近称］―― that

（16）と（17）を比べると分かるように、３系列も２系列も基本は［＋近称］と［－近称］の対立である。

[xiv]（16）において［＋近称］∧［－話し手占有領域］に該当する指示詞が存在しない（φ）のは、そうした領域が論理的に存在し得ないからである。すなわち《自身の領域を、もう一人の参与者なしには指せない》ということは、考えることができない。

（1）では、３系列の指示詞体系は[Proximal]:[Medial]:[Distal]と定義されていた。しかし、上記の議論から分かるように、３系列の指示詞体系は [+Proximal]:[Medial]:[-Proximal]と記した方が、実態に即しているのではないだろうか。そして重要なのは、《３系列の[Medial]は [-Proximal]から派生する》ということである。

以上のように考えると、２系列と３系列の指示詞体系を統一的に把握することが可能となるだろう。[xv]

６．おわりに

本稿では、２系列と３系列の指示詞体系の特徴を、日本語の指示詞体系（３系列）を基に概観してきた。そして、それぞれの系列に属する複数の指示詞体系は、大きな共通のパターンを有しながらも、それぞれに小さな異同を内包している、ということを見た。

また、両体系をより緻密に対照するためには、２系列と３系列の統一的な把握が必要となってくる。そこで両系列の最初の分化の基準を［±近称］とし、３系列の場合は［±話し手占有領域］という基準を加えると、それが可能となる、ということを論じた。

参考文献

1. 王亜新（2007）「文脈指示における日本語と中国語の指示詞の相違－日文中訳作品の実例分析」『東洋大学紀要　言語と文化』4，pp.83-98
2. 金井勇人（2017）「現場指示におけるソ系の指示語について－聞き手用法と中距離用法と」『仁科弘之教授退職記念論文集　言語をめぐる *x* 章－言語を考える、言語を教える、言語で考える』pp.116-127，埼玉大学教養学部・人文社会科学研究科
3. 河正一・金井勇人（2017）「記憶指示の「저」についての一考察」朝鮮語教育学会（第 76 回例会，於近畿大学）発表資料，2017.12.17
4. 木村英樹（1992）「中国語指示詞の「遠近」対立について－「コソア」との対照を兼ねて」『日本語と中国語の対照研究論文集（上）』pp.181-211，くろしお出版
5. 金善美（2006）『韓国語と日本語の指示詞の直示用法と非直示用法』風間書房
6. 久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店
7. 黒田成幸（1979）「(コ)・ソ・アについて」『林栄一教授還暦記念論文集　英語と日本語と』pp.41-59，くろしお出版
8. 張麟声（2001）『日本語教育のための誤用分析－中国語話者の母語干渉 20 例』スリーエーネットワーク
9. パドゥンパッタノードム・オンウマ （2004）「タイ語の指示詞－「NII」「NAN」「NOON」を巡って」『国文学解釈と鑑賞　特集〈空間〉の言語表現』69（7），pp.199-206
10. 三上章（1953）『現代語法序説』刀江書院
11. Fi11more, Charles J.（1982）“Towards a Descriptive Framework for Spatial Deixis,” Robert J.Jarvella and Wo1fgang Klein (eds.) *Speech, Place, and Action: Studies in Deixis and Related Topics*, pp.31-59, John Wiley & Sons Ltd.

[xv] 本稿で論じてきたのは、通時的な変遷ではなく、共時的な整理である。こうした整理は、系列を異にする指示詞体系をより緻密に対照するにあたって、有用であると思われる。

引用資料

朝日新聞『天声人語』
三島由紀夫『金閣寺』新潮文庫
宮沢賢治『銀河鉄道の夜』新潮文庫

付記：

本稿は、金井勇人・河正一・金聖実「日本語との対照を通して諸言語の指示詞の特徴をみるー中国語・韓国語・ロシア語・タイ語をとりあげてー」埼玉大学国際フォーラム（2017.3.11）の発表資料に基づく。発表の際に有益な御助言をくださった方々に、記して謝意を表する。